

照葉樹林復元ワーキンググループ現地検討会（令和8年6月18日）

【宮崎森林管理署】

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）の概要

日本最大級の照葉樹林を有する綾町では、九州森林管理局・宮崎県・綾町・日本自然保護協会・てるはの森の会の5者により、綾の照葉樹林の保護・復元を推進する「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト、通称：綾プロ）」協定を締結しています。

綾プロでは、原生的な照葉樹林の厳正な保護、緑の回廊としての照葉樹林帯の創造、情報発信及び支援の輪の拡大活動、二次林の適正な育成及びより原生的な照葉樹林への復元、人工林の照葉樹林への適正な復元等に取り組んでいます。

現地検討会の概要

今回の現地検討会は、そのうちの一つである人工林の照葉樹林への適正な復元等を専門として組織された「照葉樹林復元ワーキンググループ」において、その手法を検討するため、令和8年6月18日に、綾町にあるユネスコエコパークセンターにおいて手法の説明及び宮崎森林管理署管内の国有林において現地検討会を開催しました。

午前中に行われた手法の説明では、九州森林管理局計画保全部長より、これまでの取組及び、今後実施予定の施業について説明後に、各参加者との意見交換となりました。

はじめに、これまでは間伐を繰り返すことで混交林化を図り、最後にスギ・ヒノキを抜き伐りして照葉樹林への誘導完成を目指していましたが、間伐による照葉樹の発生は思ったような成果を上げることができていない現状を確認しました。

その結果を踏まえ復元手法の見直しが必要であると考え、主伐・再造林についても選択肢にする方針が提案されました。

具体的な方針として、①面的伐採を含む主伐の実行②主伐後は部分的にスギ・ヒノキを植栽（天然更新との併用）③間伐・主伐にあたって集材路網を作設（これまでは環境負荷を考慮し、綾プロエリア内では基本的に架線集材を想定していた。）という3つの全体的な方針を説明しました。

意見交換では、これまでの経緯から、「本格的に復元へ向けた動きが出て非常に期待している。」という意見の反面、「更新時のシカ被害対策への懸念」等の意見も出されました。

午後からは、綾プロエリア内にある中尾国有林において、混交林化が顕著になっており、択伐や搬出間伐による抜き伐りによって広葉樹林への誘導を検討する箇所での現地検討会を行い、伐採木の選木方法、森林作業道での搬出を検討する際の線形や、広葉樹の保残、希少な野生植物への配慮などに関する確認事項等について検討しました。

復元ワーキンググループでは今後も継続的に検討会を開催し、照葉樹林の復元を推進していきます。

